

おのだくみこ
小野田久美子 議員



問

安全迅速な災害対策と避難所運営は

答

全町防災訓練のあり方を研究したい

いつ災害が発生しても安全で迅速に行動し避難することで、町民の命を守ることにつながる対策を、少子高齢化が進む本町において推進すべきでは。

奥山町長

町の助成による防災士資格の取得状況は、7自治会で合計16名の。8月27日には旭川開発建設部の協力で、小中学校児童生徒のほか、一般町民約190名を対象に公民館で水防研修会を開催した。

全町防災訓練は、効果的なあり方について研究したい。

避難行動要支援者は9月1日現在34名であり、今後も避難支援関係者と連携を図りながら対応する。

町民への災害対策として、普段から必要な備品を準備するよう周知に努める。

○再質問

女性専用スペースの確保、また性暴力やDVの被害に遭わない体制づくり、炊き出しの運営等を考えたら防災会議の女性参加を増やす取り組みが必要では。

辻副町長

女性委員を増やせる余地はあるので、各自治会に働きかけたい。



▲水防研修会で150ミリ降雨の体験

いけざわ てつや
池澤 哲也 議員



問

大雨による農業被害への対策は

答

樋門ひもんの関係者と問題を共有し対応

今年7月の大雨で、多くの農地が冠水し農作物への被害が発生した。河川が急激に増水した場合、樋門管理の現状と課題、今後の対策は。

奥山町長

北海道管理河川の樋門管理については、点検や操作を道から本町へ委託を受けており、さらに本町から各地先の方々や町内業者に樋門管理を委託し、水防活動に協力をいただいている。

現在、業者委託している樋門の数は76基中26基であり、急激な河川の増水によって操作が間に合わなかった箇所があったほか、これまでの大雨では操作を必要としなかった樋門においても農地の浸水が発生した。

今後の樋門管理の対策として、委託業者側の人員の確保と、樋門を巡回するための人員を複数

班や複数人で迅速に巡回できる体制づくり、委託業者と樋門の地先が連携して適切なタイミングで樋門操作をするなど、具体的な対応策を検討している。

道や町、委託業者、地先の方々と研修会を通して問題点などを共有しながら、大雨による被害が最小限になるよう対応に努める。



▲適切な操作が求められる樋門管理